

「ガバナー補佐を体験して」

国際ロータリー第2640地区IM5組

ガバナー補佐 河井 恭一（富田林南ロータリークラブ）



私がAGをお引き受けするまでに、我がクラブ内での選考に手間取り、平尾ガバナー、中村PGを初め、富田林RC諸兄にも大変ご心配とご迷惑をかけました。

紆余曲折の末にこの大役をお引き受けする事になりましたが、既に第1回の勉強会が終わった後で、勉強不足のままのスタートになってしまいました。

始まってみると、案ずるよりも生むが易しの例えではありませんが、ガバナー補佐の仕事についてそれ程の負担を感じることはありませんでした。むしろ、ガバナー 公式訪問に先立つクラブ訪問や、地区行事などに出かけた折には、大切に扱って頂き、大変有難い事でした。「ガバナー補佐からのご指導を」と発言を求められる場合もありましたが、勉強不足の身、十分にお答えできなかつたことが多く、申し訳ありませんでした。

近隣クラブの中には、太子RCのように、会員の減少でわずか3人で例会を続けながら、「ロータリー100周年」の石碑を二上山公園に設置するという、立派な事業を達成されたクラブもあり、公式訪問時に実物を拝見して大変感銘を受けました。

地区での委員会にも極力出席するように心がけたのですが、仕事の都合上欠席する事が多く、この面でもご迷惑をかけることが多かった点反省しております。

ただ、委員会の開催中、AGには発言の機会がなくずっと黙って耳を傾けるだけ、と言う会議のやり方には少々苦痛に感じました。

過ぎてしまえば、10ヶ月もあっという間だったような気がします。ガバナー補佐という立場ゆえに参加できた行事も数多くあり、知己も増えました。先日のGSE受入れや派遣メンバーとの交流など、楽しかった出来事が記憶に残っております。

100周年を記念した、本年度RIのテーマ「超我の奉仕」について、平尾ガバナーが、「奉仕の基本は善意と思いやり」と解釈されたこと。また、ロータリーにおいて「ENJOY STUDY SERVICE」の実践を呼びかけられたことが印象に残ります。

今回の体験を、自分自身のロータリーに対する知識や理解を深める良い機会にしたいと念じております。

在任中お世話になった方々には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

(RI第2640地区マンスリーレター・2006年5月号より)